【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成20年12月25日(2008.12.25)

【公表番号】特表2002-540231(P2002-540231A)
【公表日】平成14年11月26日(2002.11.26)
【出願番号】特願2000-606650(P2000-606650)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｆ 212/36 (2006.01)
Ｂ０１Ｊ 20/26 (2006.01)
Ｂ０１Ｊ 31/06 (2006.01)
Ｂ０１Ｊ 32/00 (2006.01)
Ｃ０７Ｋ 1/04 (2006.01)
Ｃ０８Ｆ 2/02 (2006.01)
Ｃ０８Ｆ 2/12 (2006.01)
Ｃ０８Ｆ 2/32 (2006.01)
Ｃ０８Ｆ 8/00 (2006.01)
Ｃ０８Ｆ 212/14 (2006.01)
Ｃ０８Ｇ 81/02 (2006.01)
Ｂ０１Ｊ 20/285 (2006.01)
Ｇ０１Ｎ 30/88 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｆ 212/36 ＺＣＣ
Ｂ０１Ｊ 20/26 Ｇ
Ｂ０１Ｊ 31/06 Ｍ
Ｂ０１Ｊ 32/00
Ｃ０７Ｋ 1/04
Ｃ０８Ｆ 2/02
Ｃ０８Ｆ 2/12
Ｃ０８Ｆ 2/32
Ｃ０８Ｆ 8/00
Ｃ０８Ｆ 212/14
Ｃ０８Ｇ 81/02
Ｇ０１Ｎ 30/48 Ｐ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成20年11月5日(2008.11.5)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】特許請求の範囲
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】 １種以上のモノビニル芳香族モノマーと１種以上のジビニル芳香族モノマーと１種以上のアミノ－モノビニル芳香族モノマーとの共重合で得られるポリビニル骨格［（－CH_2CH_2）$_n$］を有する担体マトリックスに、ヌクレオシド／ヌクレオチド、デオキシヌクレオシド／デオキシヌクレオチド又はオリゴヌクレオチドがその利用可能な３’－位を介して結合していて、その利用可能な５’－位が保護されているか又は保護されておらず、３’－位及び５’－位以外のヒドロキシ基又はアミノ基が保護されており、当該担体マトリックスが多孔性であって、ポア容積の１０％以上についてポアサイズ直

径が１０～２０００Åの範囲内にあることを特徴とする、担体マトリックス。
【請求項２】　ポア容積の１０％以上についてポアサイズ直径が１００～１０００Åの範囲内にあることを特徴とする、請求項１記載の担体マトリックス。
【請求項３】　ポア容積の３０％以上についてポアサイズ直径が１００～１０００Åの範囲内にあることを特徴とする請求項２記載の担体マトリックス。
【請求項４】　当該マトリックスが単分散粒子集団の形態であることを特徴とする請求項１乃至請求項３のいずれか１項記載の担体マトリックス。
【請求項５】　当該マトリックスが、乾燥マトリックス１グラム当り１００マイクロモル超のモノマー単位からなるヌクレオチド／ヌクレオシド又はデオキシヌクレオチド／デオキシヌクレオシドの担持量を有することを特徴とする請求項１乃至請求項４のいずれか１項記載の担体マトリックス。
【請求項６】　当該マトリックスが、乾燥マトリックス１グラム当り１５０マイクロモル以上のモノマー単位からなるヌクレオチド／ヌクレオシド又はデオキシヌクレオチド／デオキシヌクレオシドの担持量を有することを特徴とする請求項５記載の担体マトリックス。
【請求項７】　オリゴ／ポリーヌクレオチド又はオリゴ／ポリーペプチドの固相合成のための、請求項１乃至請求項６のいずれか１項記載の担体マトリックスの使用。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２０】
第四の目的は有機化合物の固相合成に使用するための、前記の型に属する改善された担体マトリックスを提供することにあり、その改良点は乾燥マトリックスグラム当り、≧１００マイクロモル、例えば≧１５０マイクロモル、さらに≧２００マイクロモルの有機試薬担持量（共有結合による付着）である。これらの数字は特にその有機試薬がヌクレオチド、デオキシヌクレオチド又はその類似体である場合の担体マトリックスについて示す。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
本発明
今回、アミノ基が適宜アシル化されていてもよいアミノー（C_{0-10}）炭化水素ビニル芳香族モノマー１種以上を、他種のビニルモノマーと共重合させる場合にこれらの目的が達成できることが認識された。言い換えれば、重合反応後に得られるマトリックス内の実質的にすべてのアミノ基が同じ形、すなわち純粋なアミノ基であるか又はそのアシル化型である。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２８】
各炭化水素基は炭素原子１～２０個を有する炭化水素基であってもよく、ヒドロキシ、アルコキシ又はアミノ基１個以上で適宜置換されていてもよく、及び鎖中の位置１ケ所以上にある炭素原子を置換することになる窒素（アミノ窒素）原子、酸素（エーテル酸素）原子又は硫黄（チオエーテル硫黄）原子を含んでいてもよい。

【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６１】
ポアは不規則であることが多いが、これはサイズを評価するのが困難なことが多いことを意味する。本願明細書及び特許請求の範囲に記載したポアサイズ及びポアサイズ分布の数字はテトラヒドロフラン中でポリスチレンのサイズ排除クロマトグラフィー（ＳＥＣ）で得た値を示し、ポリスチレンの分子量とポアサイズとは次式によって関連付けられる：
φ（Å）＝０．６２（Ｍｗ）$^{0.59}$
［式中、
φ（Å）はÅを単位とするポアサイズ直径であり；
Ｍｗはポリスチレンの平均分子量である］
この方法は不規則な形のポアを円柱形のポアに近似するもので、Halasz et al, Angew. Chem. Int. Engl., 17: (1978) 901-908及びHalasz et al, Angew. Chem. Int. Engl., 19: (1980) 24-28に記載されている。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００９４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００９４】
１．その官能基の一つを介して担体マトリックスに結合し、第二官能基が保護されたモノマーの一つを含むＸを持つ前記定義の担体マトリックスを提供する；
２．適用できるならば第二官能基を脱保護する；
３．該第二官能基をその第一の官能基を活性化し、及び第二官能基を保護したモノマーと反応させる；
４．工程２～３を同一又は相異なるモノマーを用いて予定した回数だけ反復する；及び
５．形成されたポリマーを適宜担体から脱保護し、放出させる。
使用したモノマーがさらに反応に関与できる官能基を含む場合には適宜保護する。
典型的には洗浄段階を段階１～５の間に含める。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１２２】
生成した粒子の特性（膨潤率、剛性、担持性能、オリゴヌクレオチド合成の収率、価格など）を全て斟酌すると、優先権出願日にはロット６の担体マトリックスが最適であると考えられ、これを最初のプロトタイプとして使用した。さらにポローゲン（トルエン）を増量することによって、なお改善された粒子を得ることができる兆候があった。